

令和2年度 幸区区民アンケート調査 概要版

調査の概要

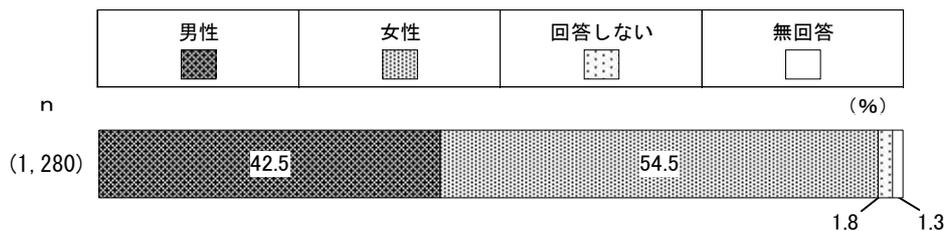
- 【調査対象】 幸区内在住の18歳以上の個人（外国人含む）
 【標本抽出】 令和2年4月15日現在の住民基本台帳に基づく無作為抽出
 【調査方法】 郵送配布、郵送回収
 【調査期間】 令和2年5月20日～6月3日
 【回収結果】 調査件数：2,000件
 有効回収数：1,280件
 有効回収率：64.0%
- 【調査項目】
- | | |
|--------------------|----------------|
| (1) 幸区について | (8) 児童虐待について |
| (2) 区民サービスについて | (9) 高齢者支援について |
| (3) 自転車事故防止対策について | (10) 障害者支援について |
| (4) 防災について | (11) 行政の情報について |
| (5) 地域コミュニティについて | (12) 公園の利用について |
| (6) 地域包括ケアシステムについて | (13) 自由意見 |
| (7) 子育て支援について | |

※ 図中における基数となるべき実数（n）は回答者数を示している。また、本文中の「構成比（%）」は小数点以下第2位を四捨五入していること、並びに複数回答によるものも含まれていることから、構成比の合計が100%に満たない、あるいは上回る場合がある。

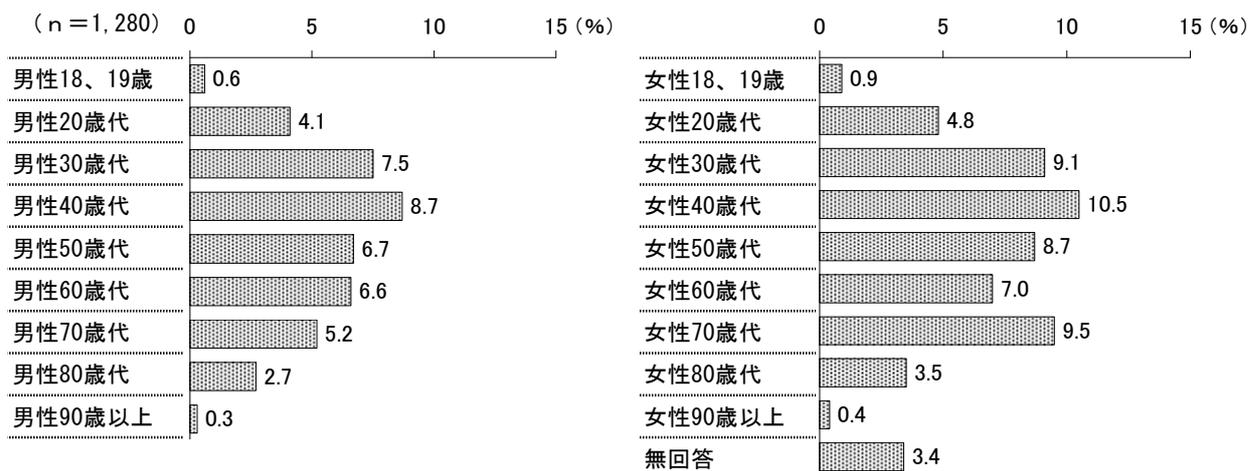
※ 本アンケート実施にあたっては、新型コロナウイルス感染症拡大防止のための外出自粛等の状況は考慮せずに回答して欲しい旨を伝えている。

○調査回答者の属性

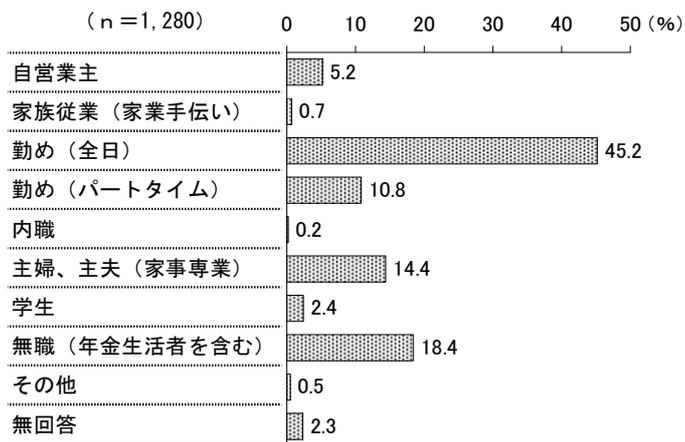
(1) 性別



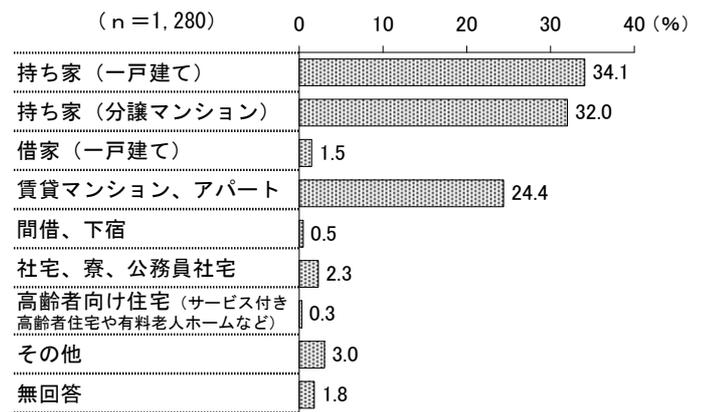
(2) 年齢



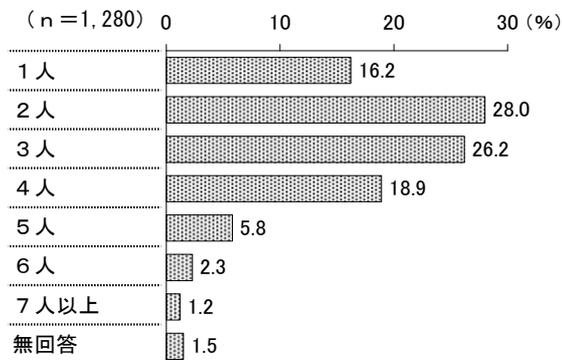
(3) 職業



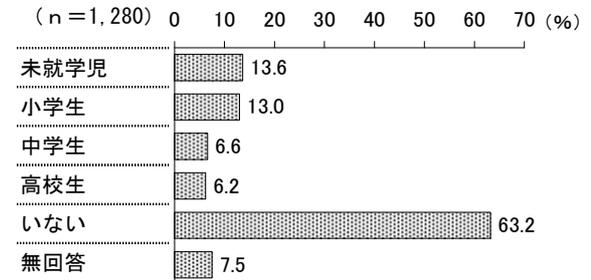
(4) 居住形態



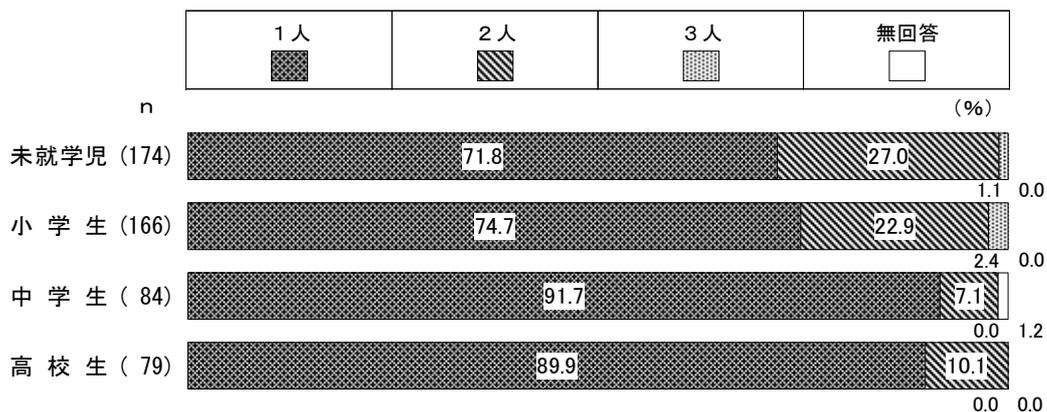
(5) 同居家族



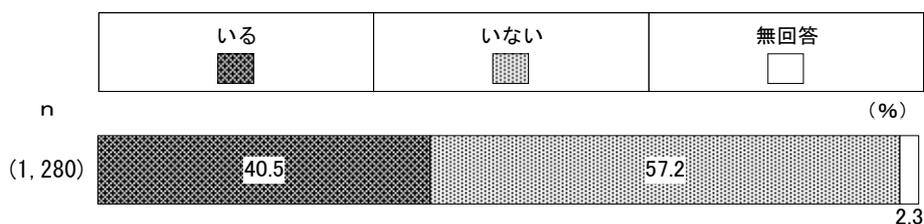
(6) 同居の未就学児、小学生、中学生、高校生の有無 (複数回答)



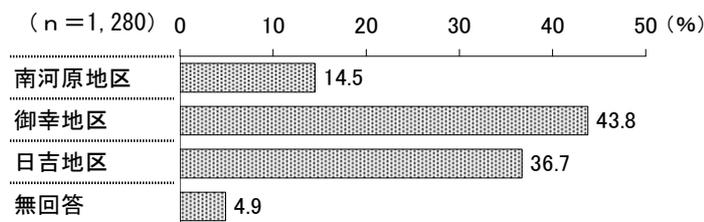
(6-1) 同居の未就学児、小学生、中学生、高校生の人数



(7) 高齢者 (65歳以上) の同居状況



(8) 居住地区



※各地区の内訳

【幸区役所管内】

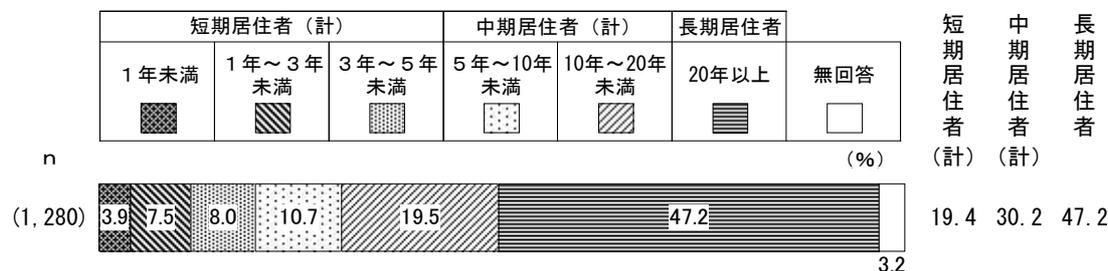
南河原地区：大宮町、幸町、中幸町、堀川町、南幸町、都町、柳町

御幸地区：遠藤町、河原町、小向町、小向仲野町、小向西町、紺屋町、下平間、新塚越、神明町、塚越、戸手、戸手本町、東古市場、古市場、古川町

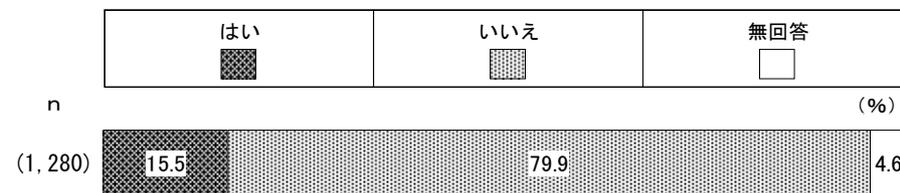
【日吉出張所管内】

日吉地区：小倉、鹿島田、北加瀬、新小倉、新川崎、東小倉、南加瀬、矢上

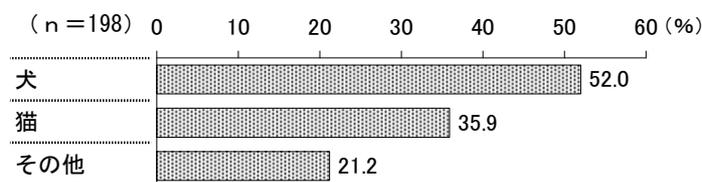
(9) 居住年数



(10) ペット (犬や猫など) の有無



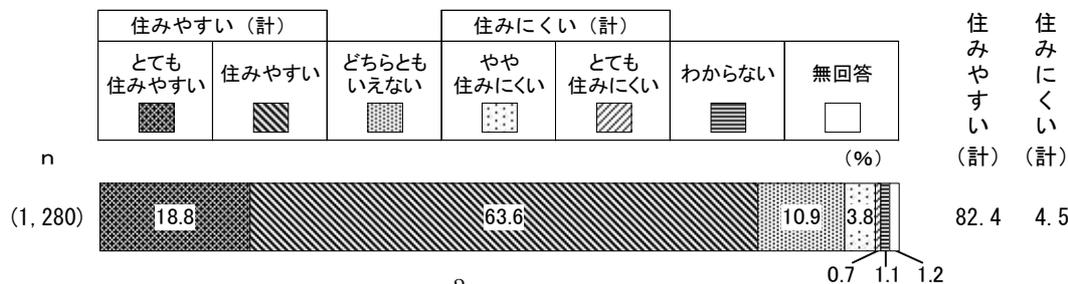
(10-1) 飼っているペットの種類 (複数回答)



1 幸区について

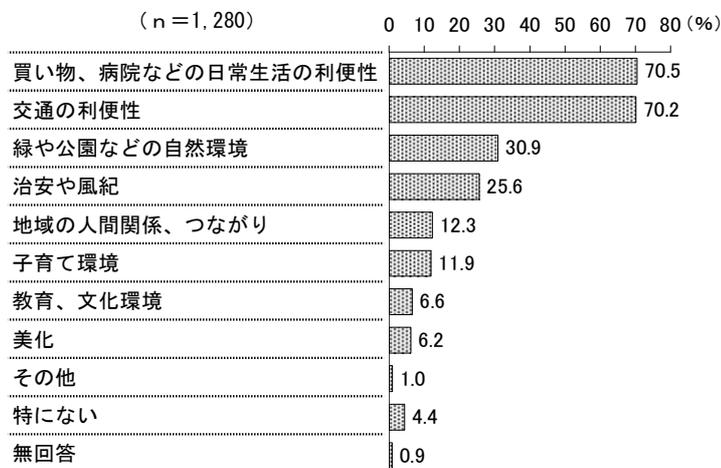
(1) 幸区の住みやすさ

「とても住みやすい」(18.8%)と「住みやすい」(63.6%)を合わせた『住みやすい (計)』は82.4%となっている。



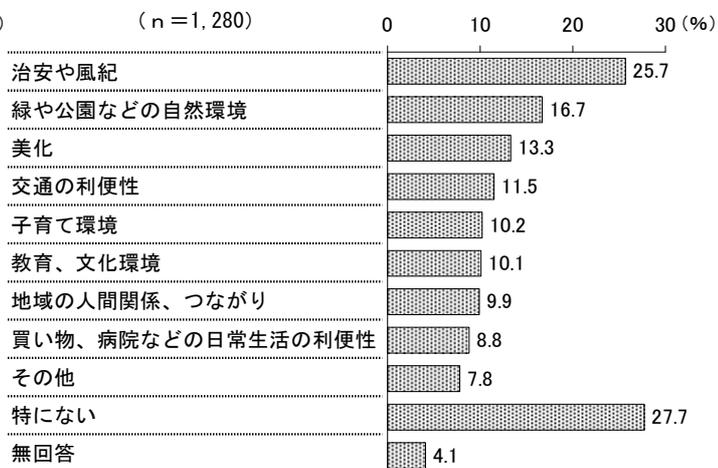
(2) 幸区の良いと感じるところ (複数回答)

「買い物、病院などの日常生活の利便性」が70.5%で最も高く、次いで「交通の利便性」(70.2%)、「緑や公園などの自然環境」(30.9%)と続いている。



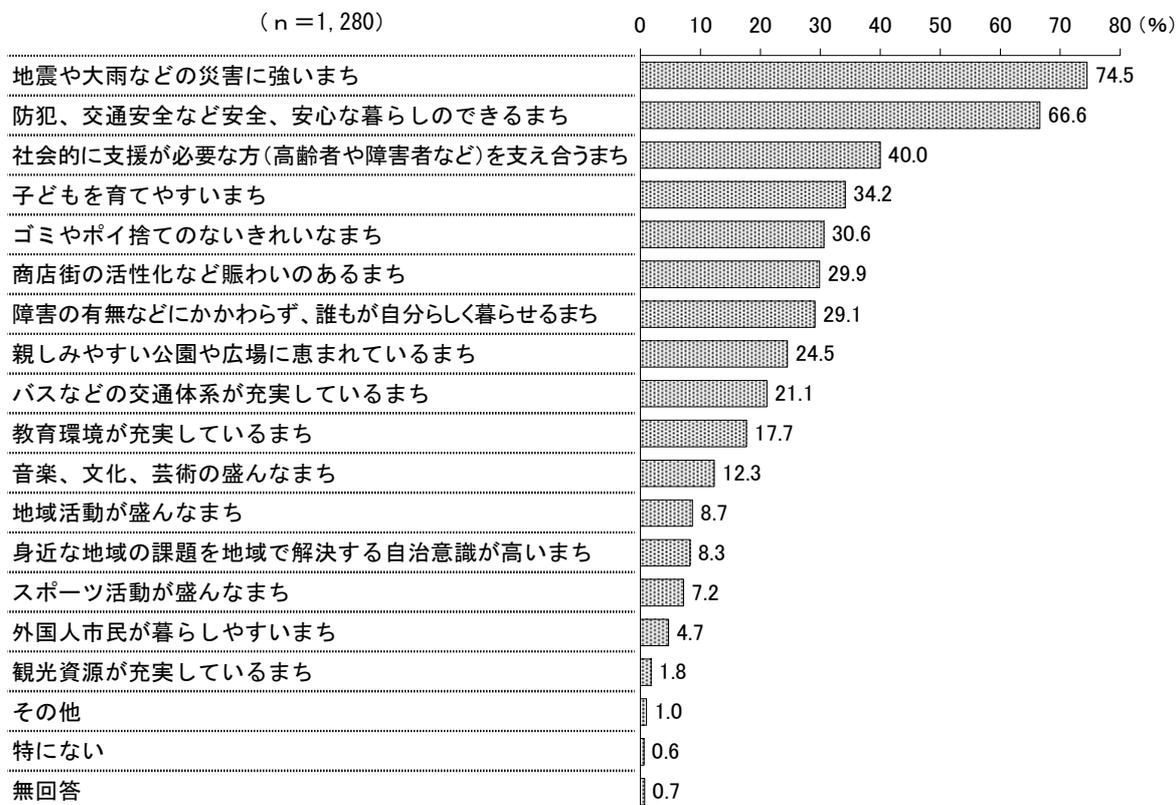
(3) 幸区の不満に感じる場所 (複数回答)

「治安や風紀」が25.7%で最も高く、次いで「緑や公園などの自然環境」(16.7%)、「美化」(13.3%)と続いている。一方、「特にない」は27.7%となっている。



(4) 「10年後の幸区」について、どのような「まち」をめざすべきか (複数回答)

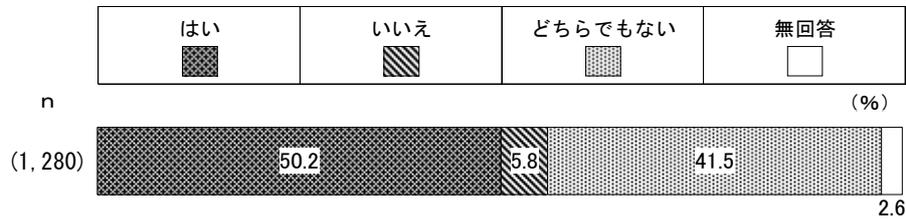
「地震や大雨などの災害に強いまち」が74.5%で最も高く、次いで「防犯、交通安全など安全、安心な暮らしのできるまち」(66.6%)、「社会的に支援が必要な方(高齢者や障害者など)を支え合うまち」(40.0%)と続いている。



2 区民サービスについて

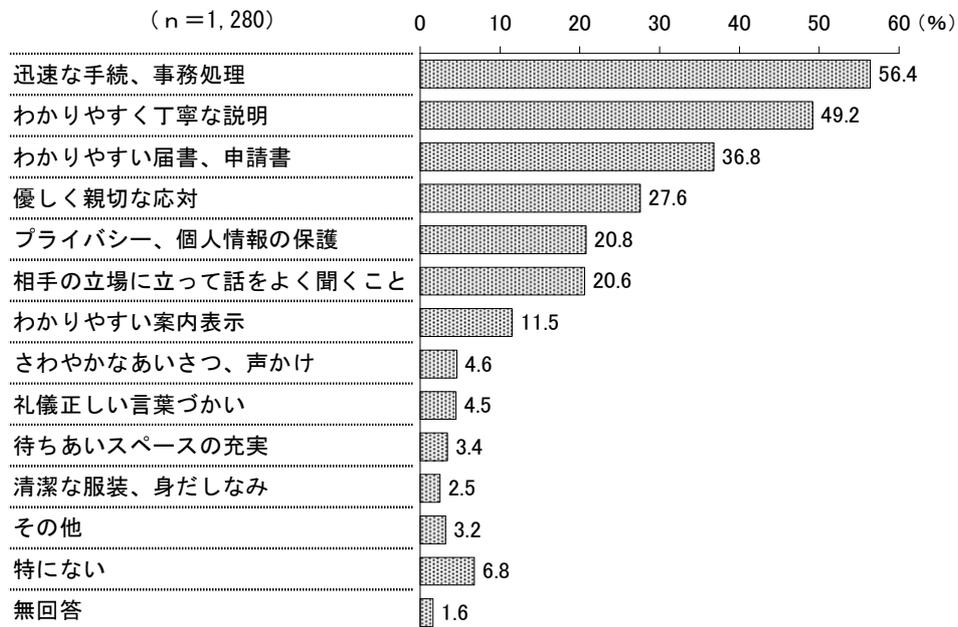
(1) 区役所での対応の満足度

「はい (満足している)」が 50.2%、「いいえ (満足していない)」は 5.8%、「どちらでもない」は 41.5%となっている。



(2) 窓口サービスなどに期待するもの (複数回答)

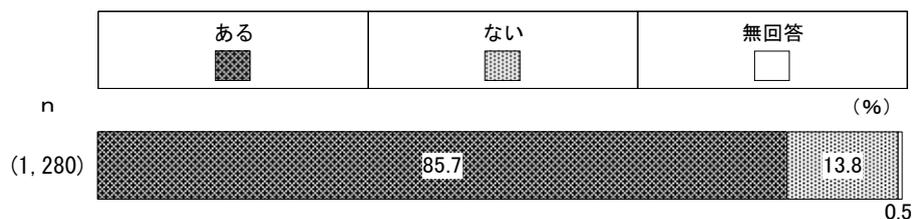
「迅速な手続、事務処理」が 56.4%で最も高く、次いで「わかりやすく丁寧な説明」(49.2%)、「わかりやすい届書、申請書」(36.8%)と続いている。



3 自転車事故防止対策について

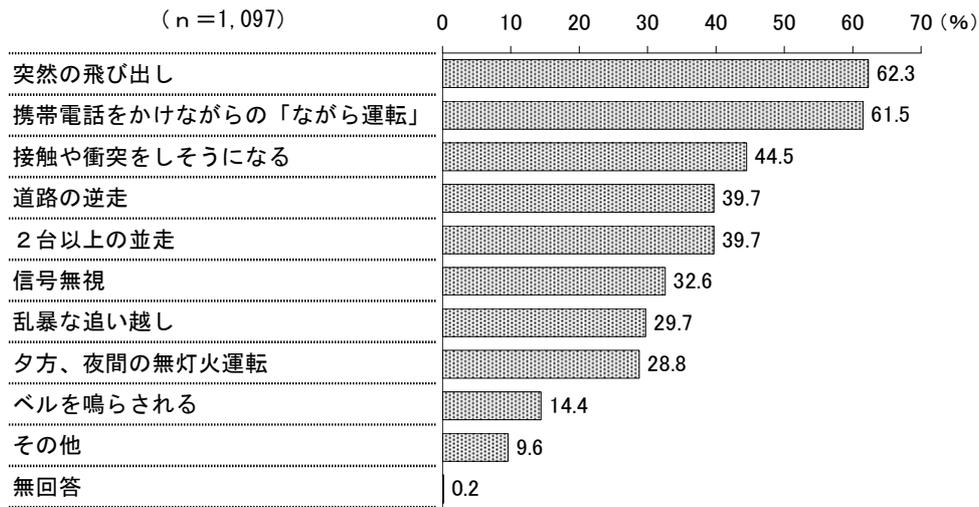
(1) 自転車に危険を感じたことがあるか

「ある」が 85.7%、「ない」は 13.8%となっている。



(2) 自転車に危険を感じた状況 (複数回答)

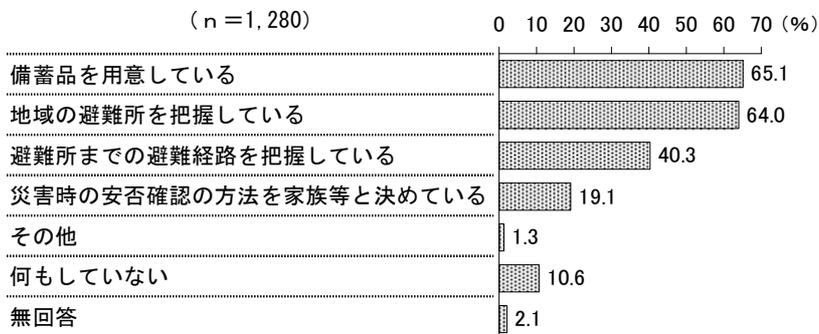
「突然の飛び出し」が62.3%で最も高く、次いで「携帯電話をかけながらの『ながら運転』」(61.5%)、「接触や衝突をしそうになる」(44.5%)と続いている。



4 防災について

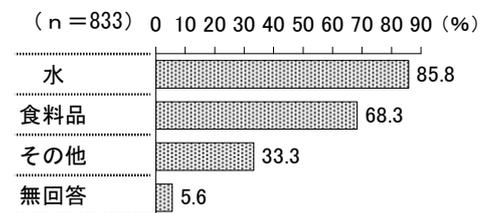
(1) 災害に備えて行っていること (複数回答)

「備蓄品を用意している」が65.1%で最も高く、次いで「地域の避難所を把握している」(64.0%)、「避難所までの避難経路を把握している」(40.3%)と続いている。



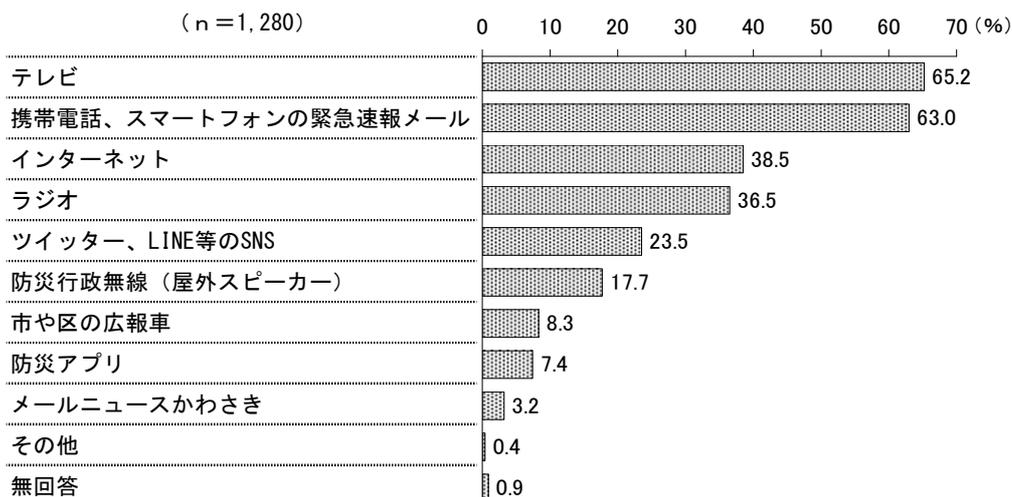
<備蓄しているもの> (複数回答)

「水」が85.8%で最も高く、次いで「食料品」(68.3%)と続いている。



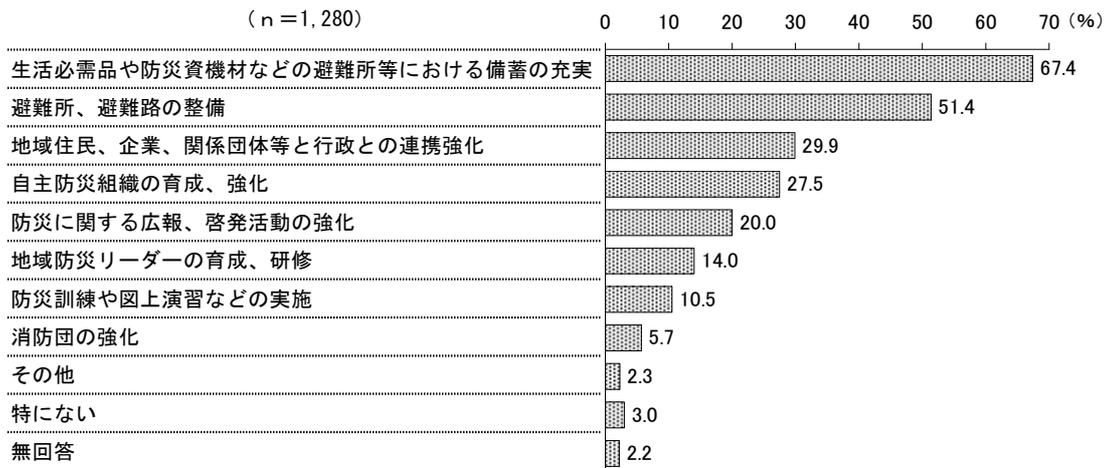
(2) 災害時に情報を得るための手段として有効なもの (複数回答)

「テレビ」が65.2%で最も高く、次いで「携帯電話、スマートフォンの緊急速報メール」(63.0%)、「インターネット」(38.5%)と続いている。



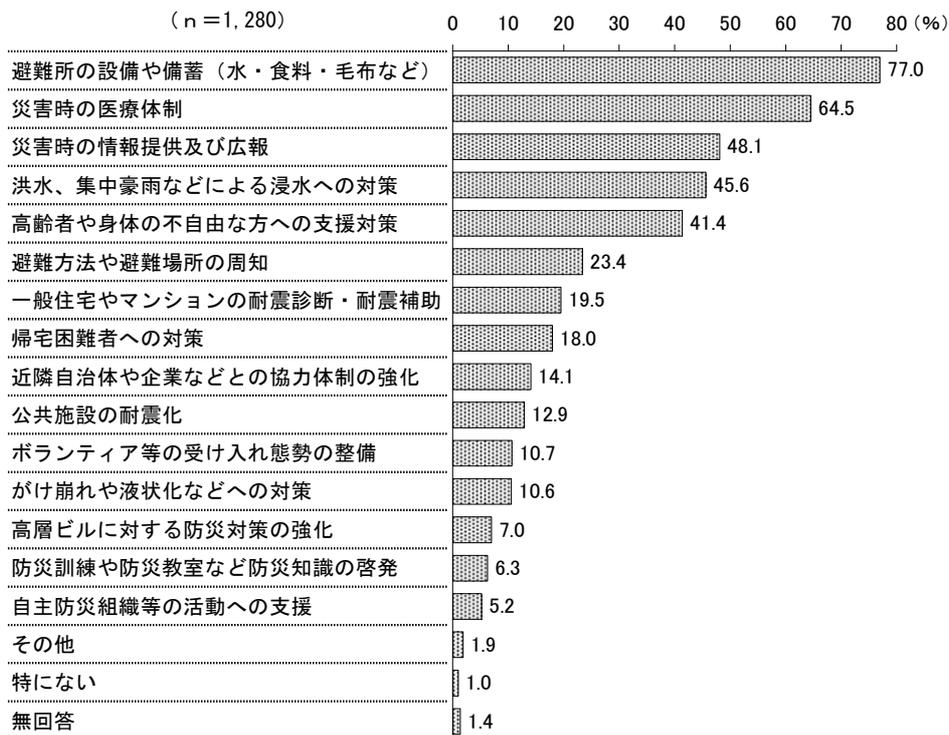
(3) 地域の防災力向上のために力を入れるべきこと（複数回答）

「生活必需品や防災資機材などの避難所等における備蓄の充実」が 67.4%で最も高く、次いで「避難所、避難路の整備」(51.4%)と続いている。



(4) 防災対策で行政が力を入れるべきこと（複数回答）

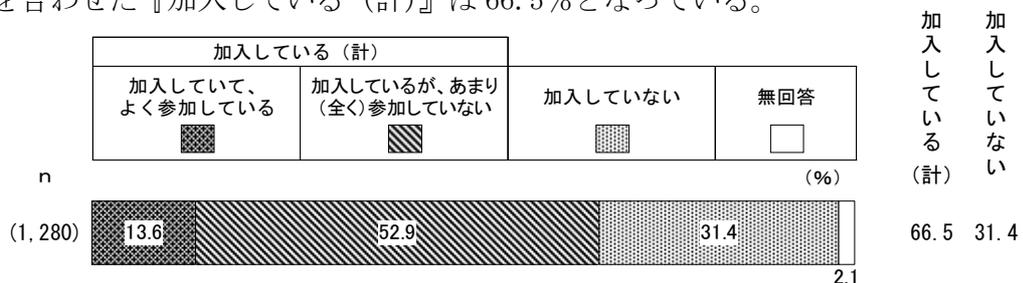
「避難所の設備や備蓄（水・食料・毛布など）」が 77.0%で最も高く、次いで「災害時の医療体制」(64.5%)、「災害時の情報提供及び広報」(48.1%)と続いている。



5 地域コミュニティについて

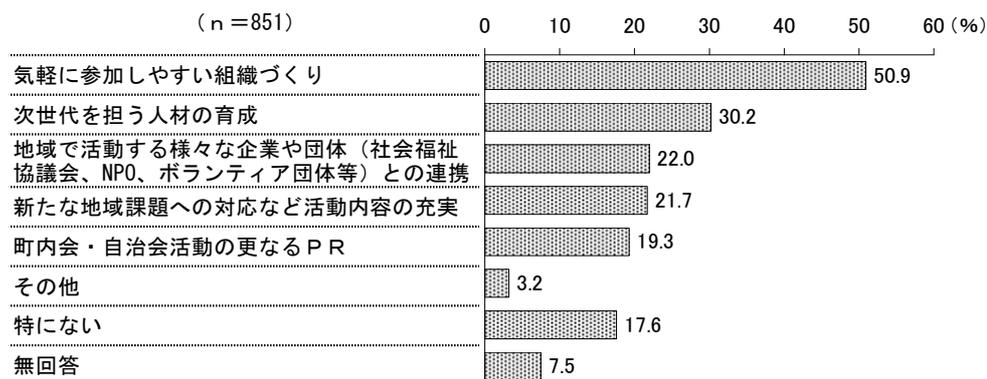
(1) 町内会・自治会の加入状況

「加入していて、よく参加している」(13.6%)と「加入しているが、あまり(全く)参加していない」(52.9%)を合わせた『加入している(計)』は 66.5%となっている。



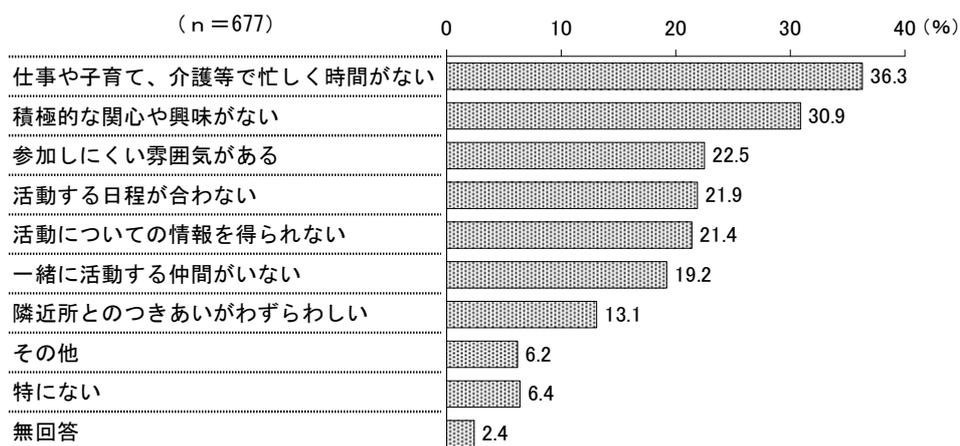
(2) 町内会・自治会活動に期待すること（複数回答）

「気軽に参加しやすい組織づくり」が50.9%で最も高く、次いで「次世代を担う人材の育成」(30.2%)、「地域で活動する様々な企業や団体（社会福祉協議会、NPO、ボランティア団体等）との連携」(22.0%)と続いている。



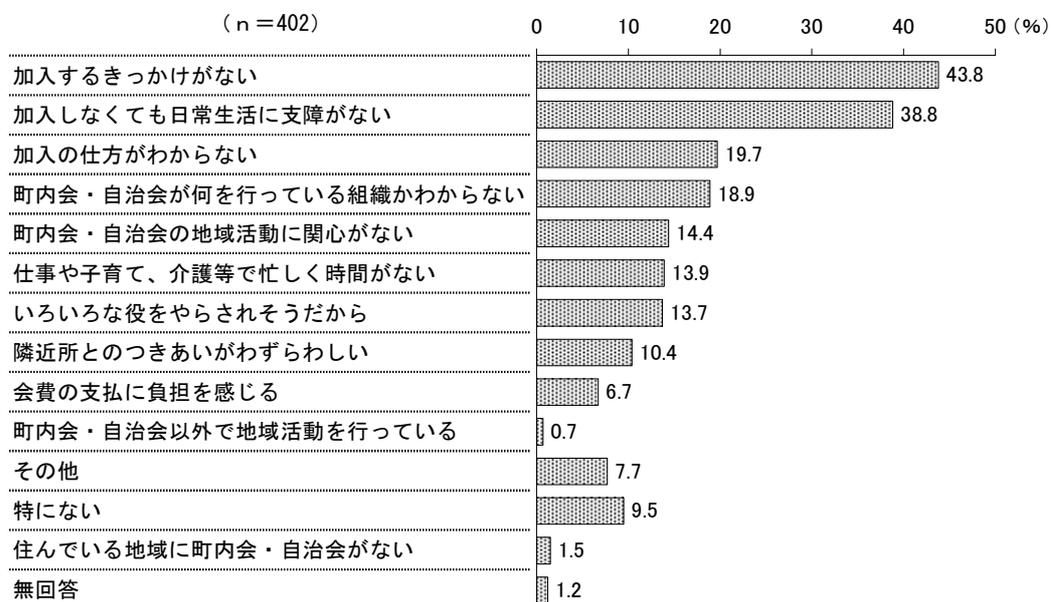
(3) 町内会・自治会活動に参加しない理由（複数回答）

「仕事や子育て、介護等で忙しく時間がない」が36.3%で最も高く、次いで「積極的な関心や興味がない」(30.9%)、「参加しにくい雰囲気がある」(22.5%)と続いている。



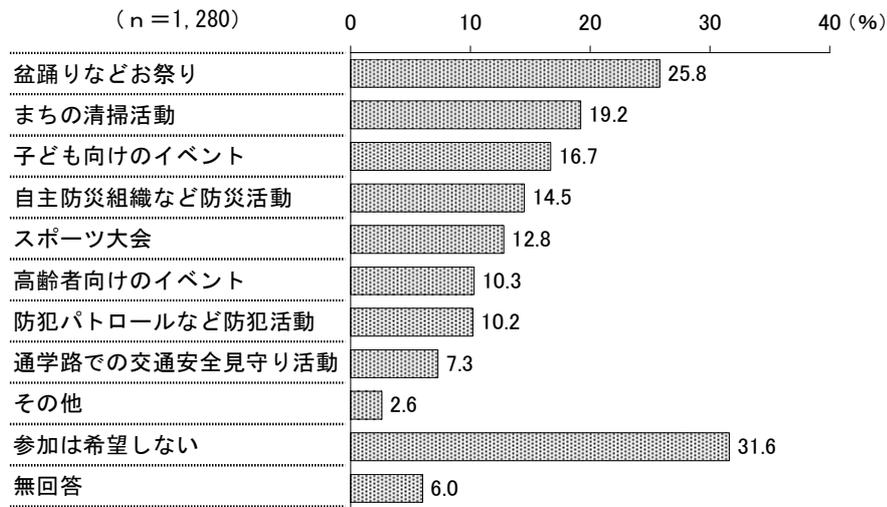
(4) 町内会・自治会に加入していない理由（複数回答）

「加入するきっかけがない」が43.8%で最も高く、次いで「加入しなくても日常生活に支障がない」(38.8%)、「加入の仕方がわからない」(19.7%)と続いている。



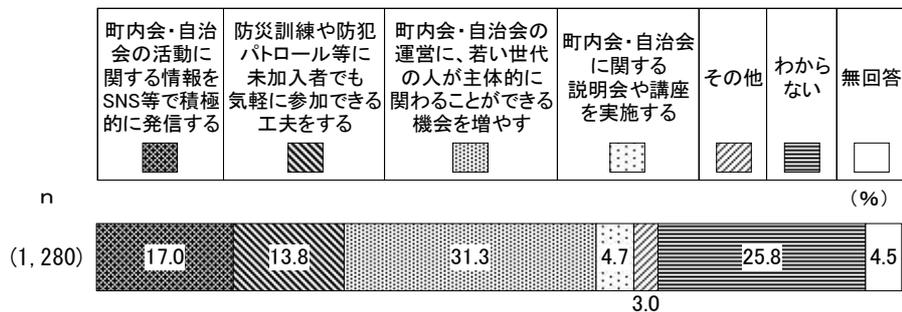
(5) 町内会・自治会の活動で参加してみたいこと（複数回答）

「盆踊りなどお祭り」が25.8%で最も高く、次いで「まちの清掃活動」(19.2%)、「子ども向けのイベント」(16.7%)と続いている。一方、「参加は希望しない」は31.6%となっている。



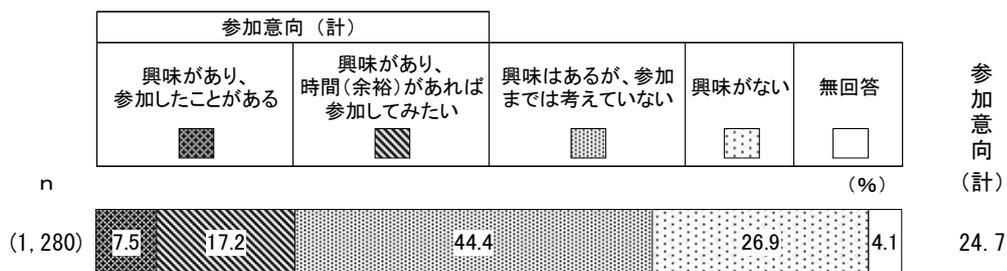
(6) 町内会・自治会の活動に関心を持ってもらうために有効な方法

「町内会・自治会の運営に、若い世代の人が主体的に関わることができる機会を増やす」が31.3%で最も高く、次いで「町内会・自治会の活動に関する情報を SNS 等で積極的に発信する」(17.0%)、「防災訓練や防犯パトロール等に未加入者でも気軽に参加できる工夫をする」(13.8%)と続いている。



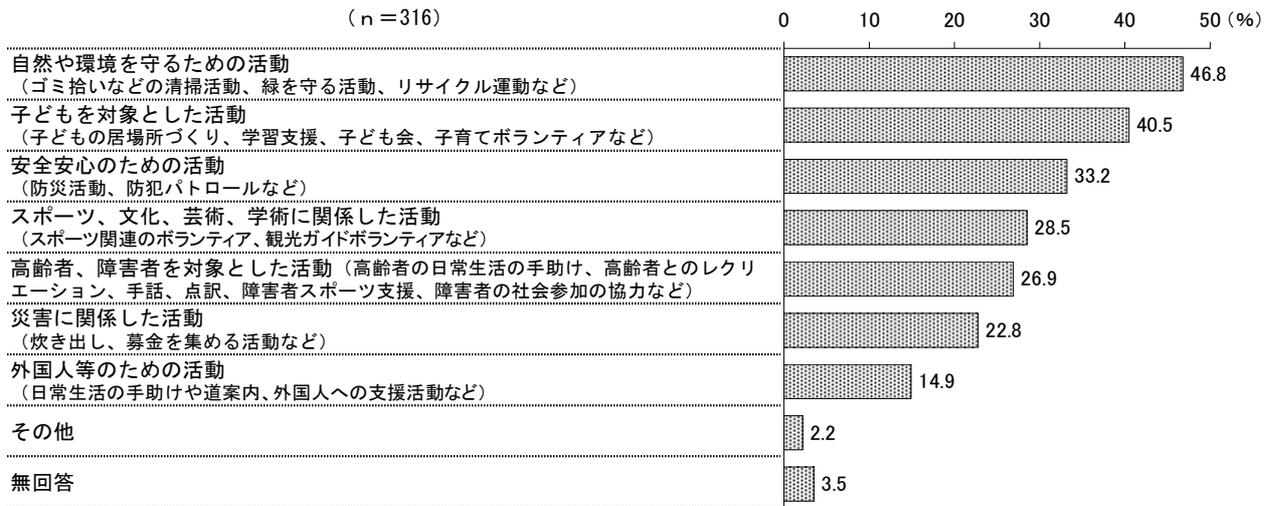
(7) ボランティア等の市民活動への興味

「興味があり、参加したことがある」(7.5%)と「興味があり、時間(余裕)があれば参加してみたい」(17.2%)を合わせた『参加意向(計)』は24.7%となっている。一方、「興味はあるが、参加までは考えていない」が44.4%、「興味がない」は26.9%となっている。



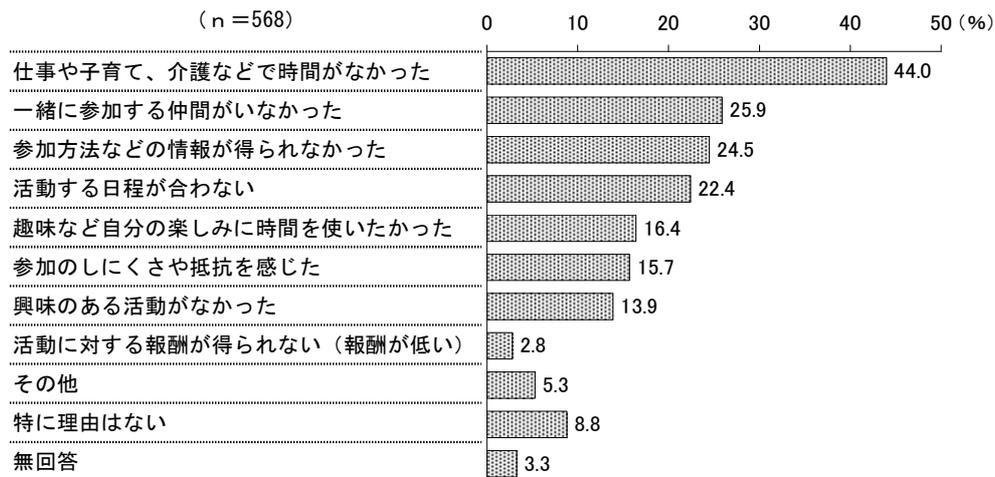
(8) 「参加したことがある」もしくは「参加してみたい」市民活動の分野（複数回答）

「自然や環境を守るための活動」が46.8%で最も高く、次いで「子どもを対象とした活動」(40.5%)、「安全安心のための活動」(33.2%)と続いている。



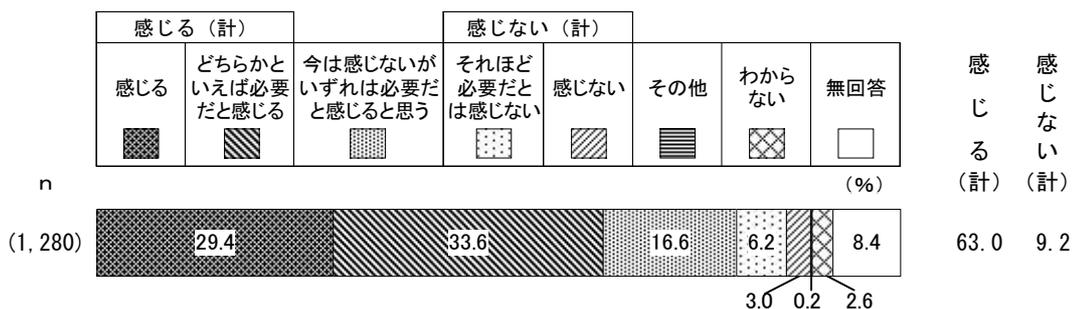
(9) 市民活動への参加にいたらなかった理由（複数回答）

「仕事や子育て、介護などで時間がなかった」が44.0%で最も高く、次いで「一緒に参加する仲間がいなかった」(25.9%)、「参加方法などの情報が得られなかった」(24.5%)と続いている。



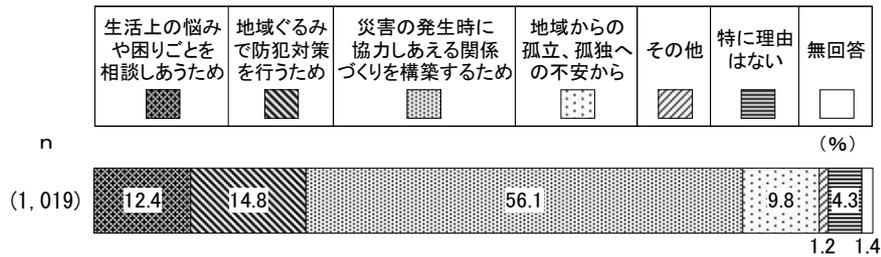
(10) 地域とのつながりの必要性

「感じる」(29.4%)と「どちらかといえば必要だと感じる」(33.6%)を合わせると、63.0%の人が地域とのつながりが必要と感じている。



(11) 地域とのつながりが必要な理由

「災害の発生時に協力しあえる関係づくりを構築するため」が 56.1%で最も高く、次いで「地域ぐるみで防犯対策を行うため」(14.8%)、「生活上の悩みや困りごとを相談しあうため」(12.4%)と続いている。



6 地域包括ケアシステムについて

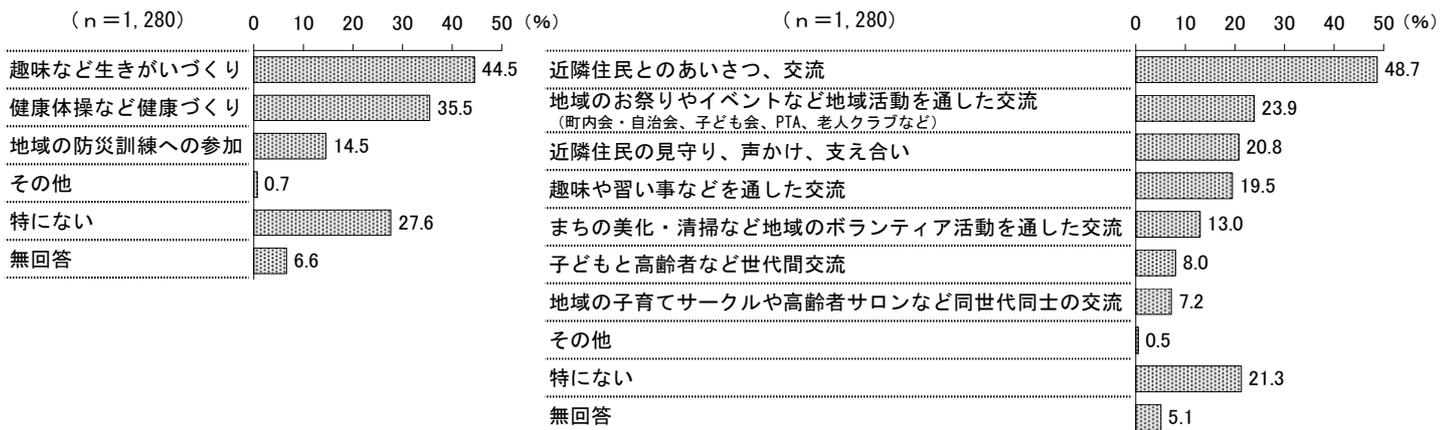
(1) 自助、互助について行っていること、行ってみたいこと（複数回答）

【自助】について行っていること（行ってみたいこと）を聞いたところ、「趣味など生きがいがづくり」が 44.5%で最も高く、次いで「健康体操など健康づくり」(35.5%)と続いている。

また、【互助】について行っていること（行ってみたいこと）を聞いたところ、「近隣住民とのあいさつ、交流」が 48.7%で最も高く、次いで「地域のお祭りやイベントなど地域活動を通じた交流」(23.9%)と続いている。

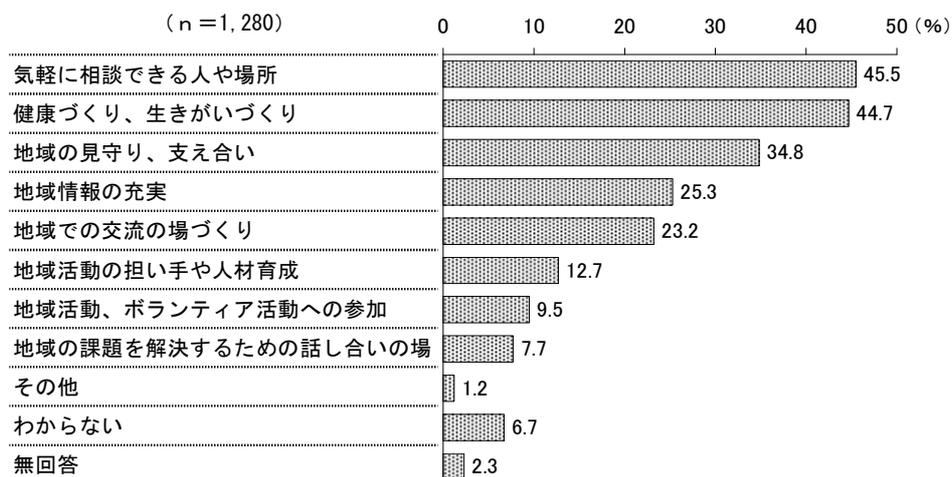
【自助】

【互助】



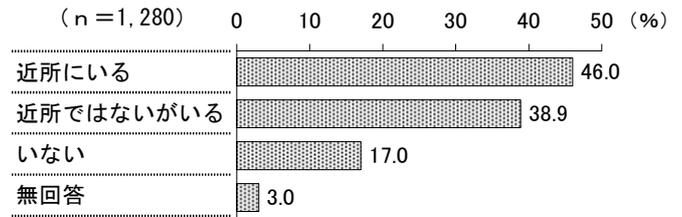
(2) 誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために必要なこと（複数回答）

「気軽に相談できる人や場所」が 45.5%で最も高く、次いで「健康づくり、生きがいがづくり」(44.7%)、「地域の見守り、支え合い」(34.8%)と続いている。



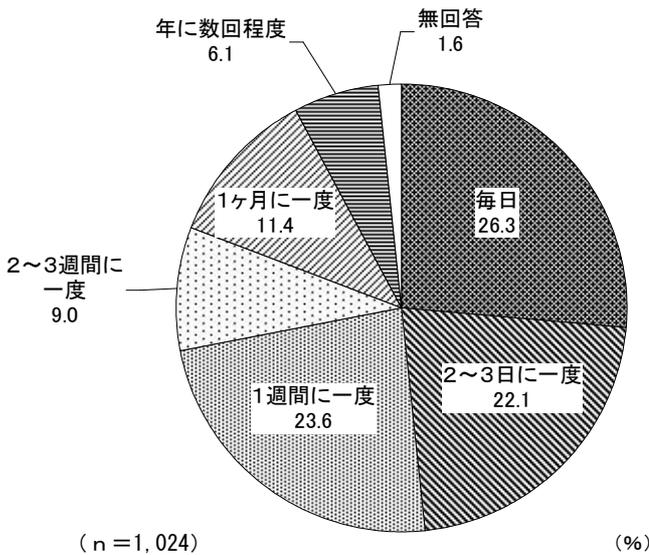
(3) 話し相手の有無 (複数回答)

「近所にいる」が46.0%で最も高く、次いで「近所ではないがいる」(38.9%)、「いない」(17.0%)と続いている。



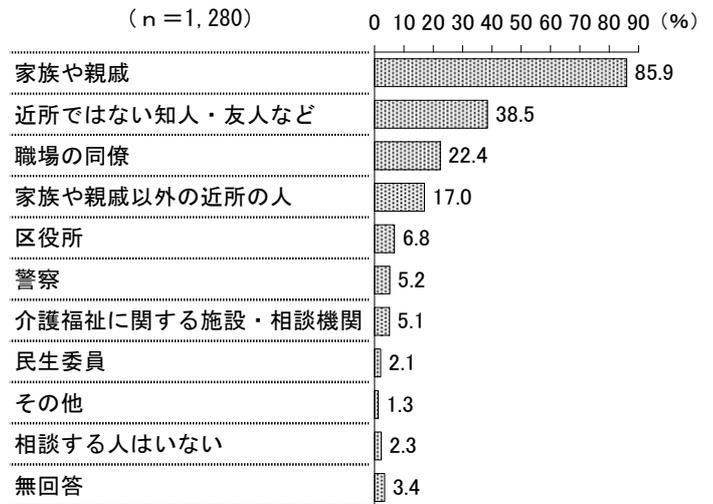
(4) 話し相手との会話の頻度

「毎日」が26.3%で最も高く、次いで「1週間に一度」(23.6%)、「2～3日に一度」(22.1%)と続いている。



(5) 何かあったときの相談相手 (複数回答)

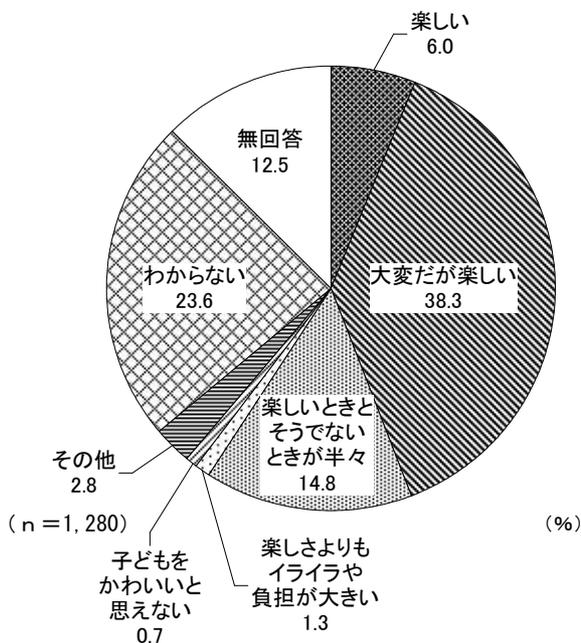
「家族や親戚」が85.9%で最も高く、次いで「近所ではない知人・友人など」(38.5%)、「職場の同僚」(22.4%)と続いている。



7 子育て支援について

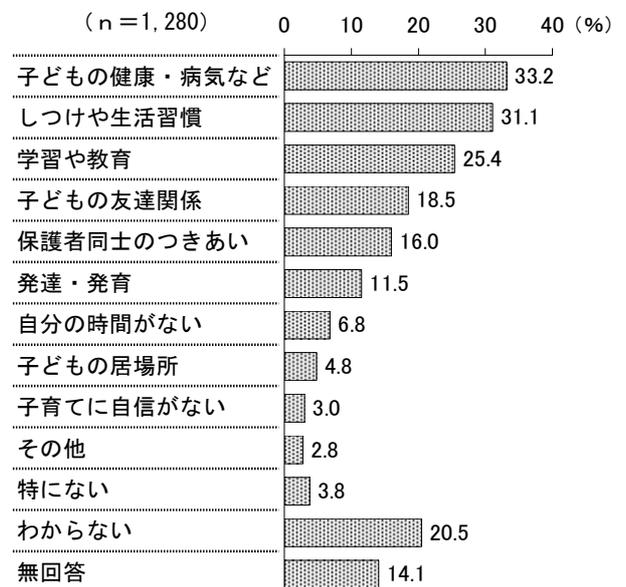
(1) 子育てについて感じること

「大変だが楽しい」が38.3%で最も高く、次いで「楽しいときとそうでないときが半々」(14.8%)と続いている。



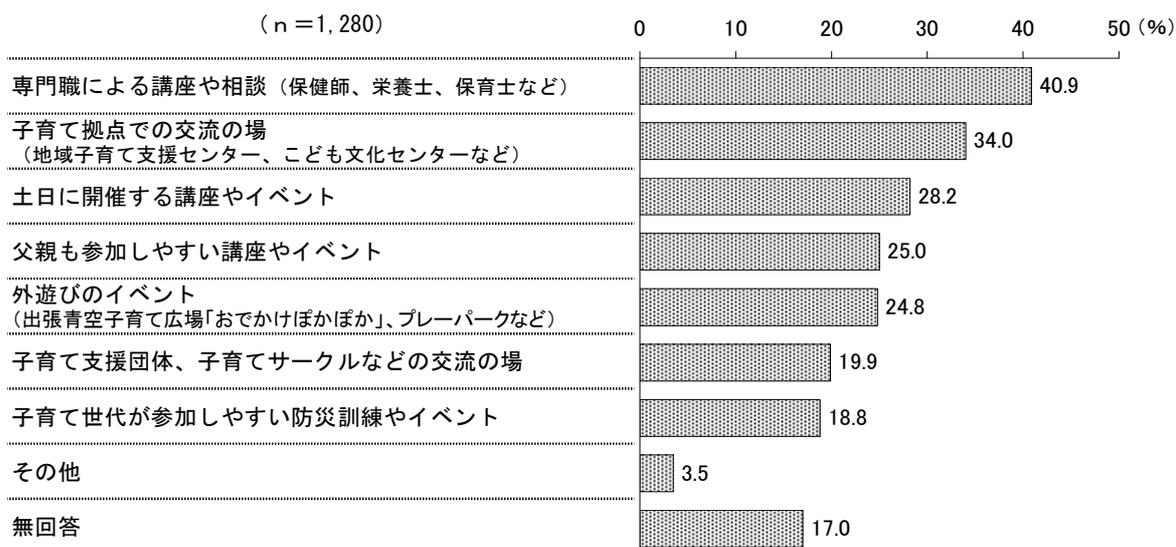
(2) 子育てをしているときに感じる不安や悩み (複数回答)

「子どもの健康・病気など」が33.2%で最も高く、次いで「しつけや生活習慣」(31.1%)、「学習や教育」(25.4%)と続いている。



(3) 子育て支援の取り組みについて効果的だと思うもの（複数回答）

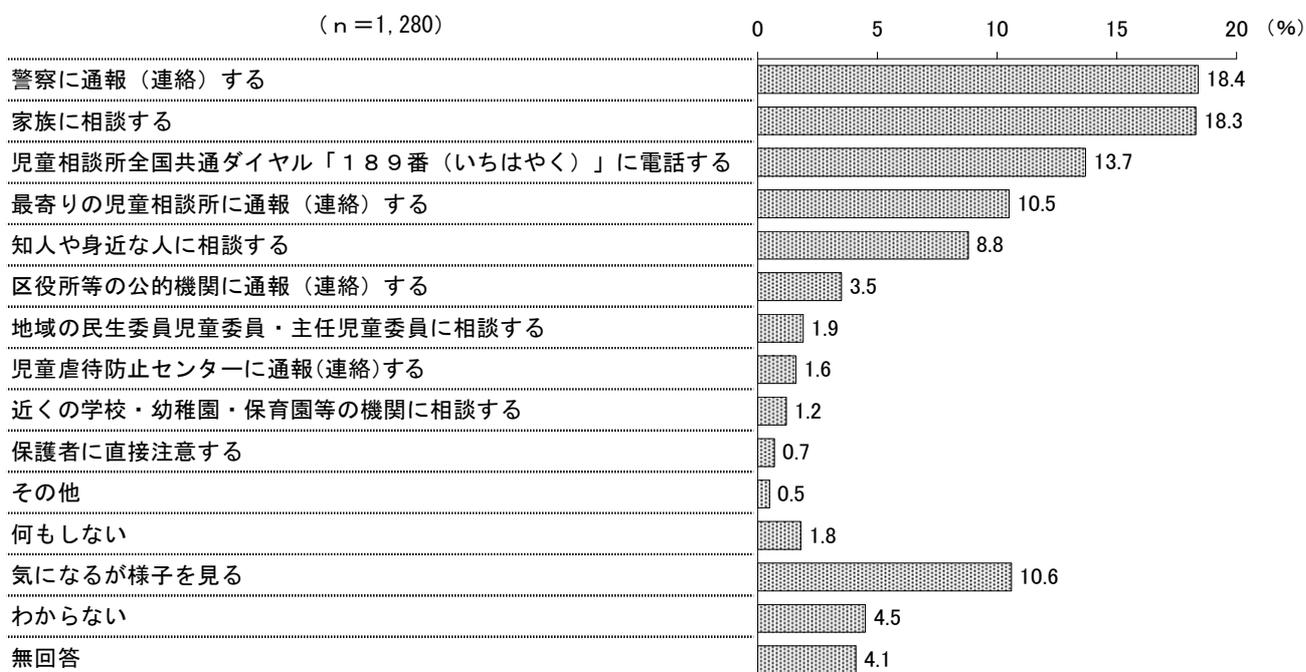
「専門職による講座や相談」が40.9%で最も高く、次いで「子育て拠点での交流の場」(34.0%)、「土日に開催する講座やイベント」(28.2%)と続いている。



8 児童虐待について

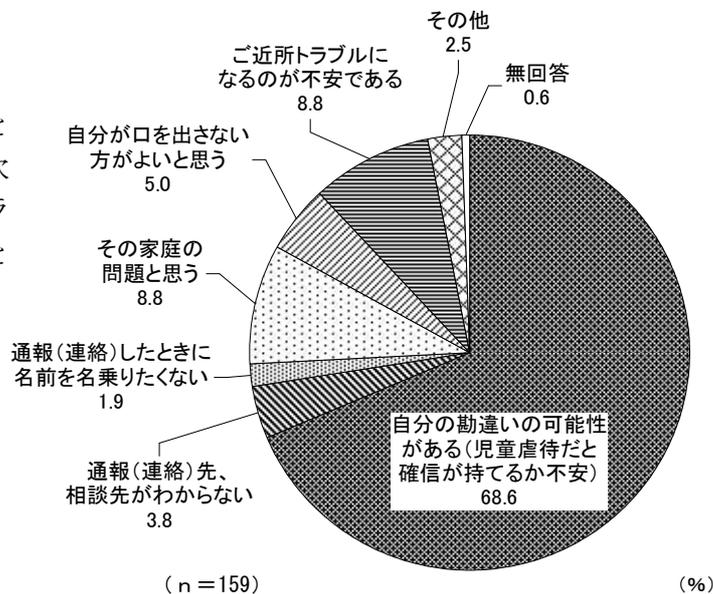
(1) 児童虐待と思われる家庭を知ったときの対応

「警察に通報（連絡）する」が18.4%で最も高く、次いで「家族に相談する」(18.3%)、「児童相談所全国共通ダイヤル『189番（いちはやく）』に電話する」(13.7%)と続いている。



(2) 児童虐待への対応が消極的な理由

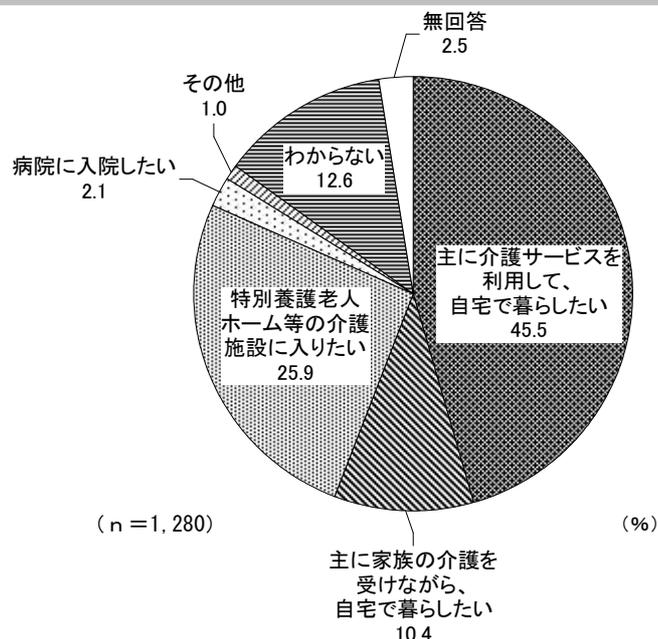
「自分の勘違いの可能性がある（児童虐待だと確信が持てるか不安）」が68.6%で最も高く、次いで「その家庭の問題と思う」と「ご近所トラブルになるのが不安である」（ともに8.8%）と続いている。



9 高齢者支援について

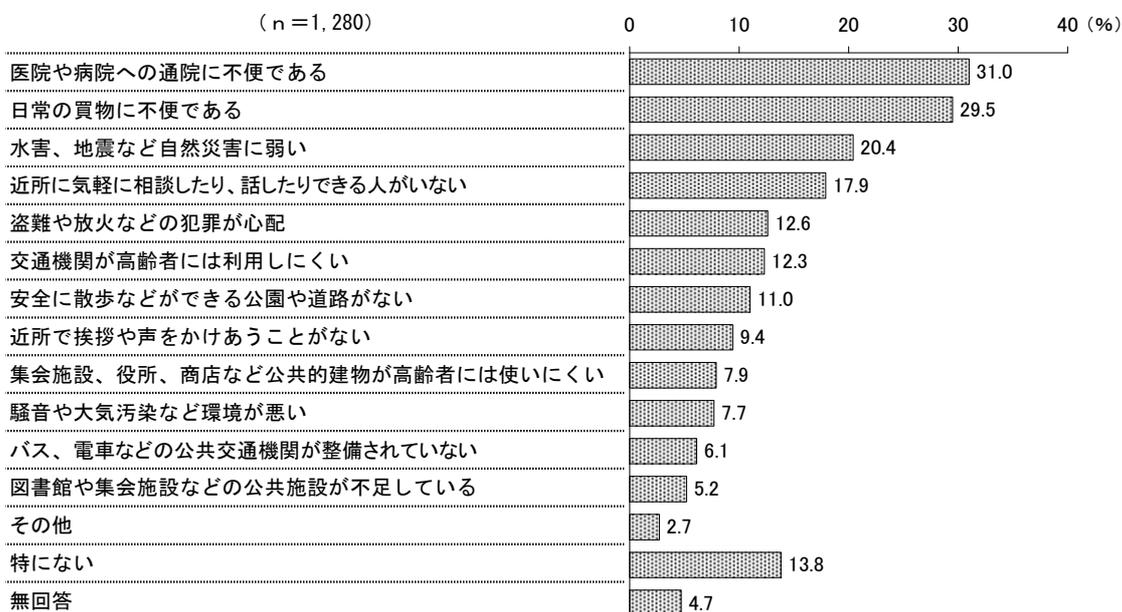
(1) 介護が必要になった場合の希望する生活

「主に介護サービスを利用して、自宅で暮らしたい」が45.5%で最も高く、次いで「特別養護老人ホーム等の介護施設に入りたい」(25.9%)、「主に家族の介護を受けながら、自宅で暮らしたい」(10.4%)と続いている。



(2) 高齢者が感じる地域の問題点 (複数回答)

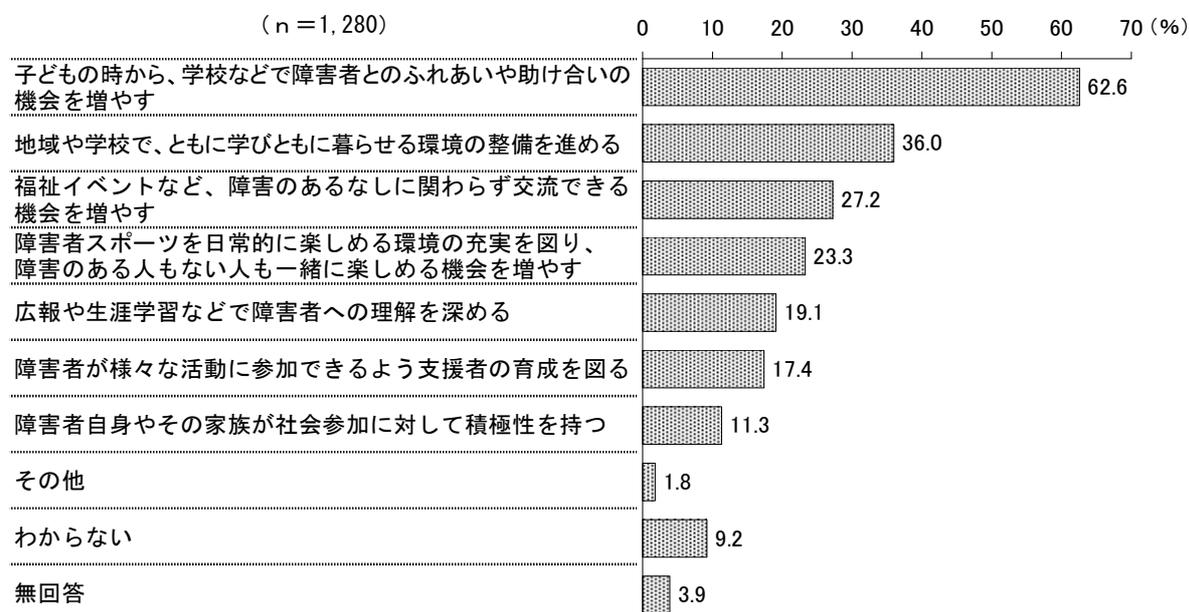
「医院や病院への通院に不便である」が31.0%で最も高く、次いで「日常の買物に不便である」(29.5%)、「水害、地震など自然災害に弱い」(20.4%)と続いている。



10 障害者支援について

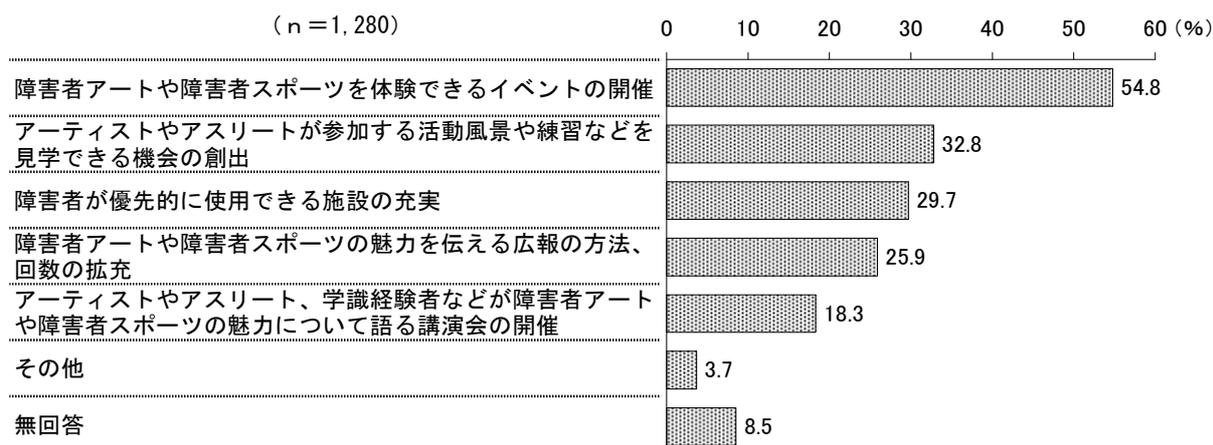
(1) 心のバリアフリーを進めていくために大切だと思うこと（複数回答）

「子どもの時から、学校などで障害者とのふれあいや助け合いの機会を増やす」が62.6%で最も高く、次いで「地域や学校で、ともに学びともに暮らせる環境の整備を進める」(36.0%)、「福祉イベントなど、障害のあるなしに関わらず交流できる機会を増やす」(27.2%)と続いている。



(2) 障害者アートや障害者スポーツを普及するために必要な取り組み（複数回答）

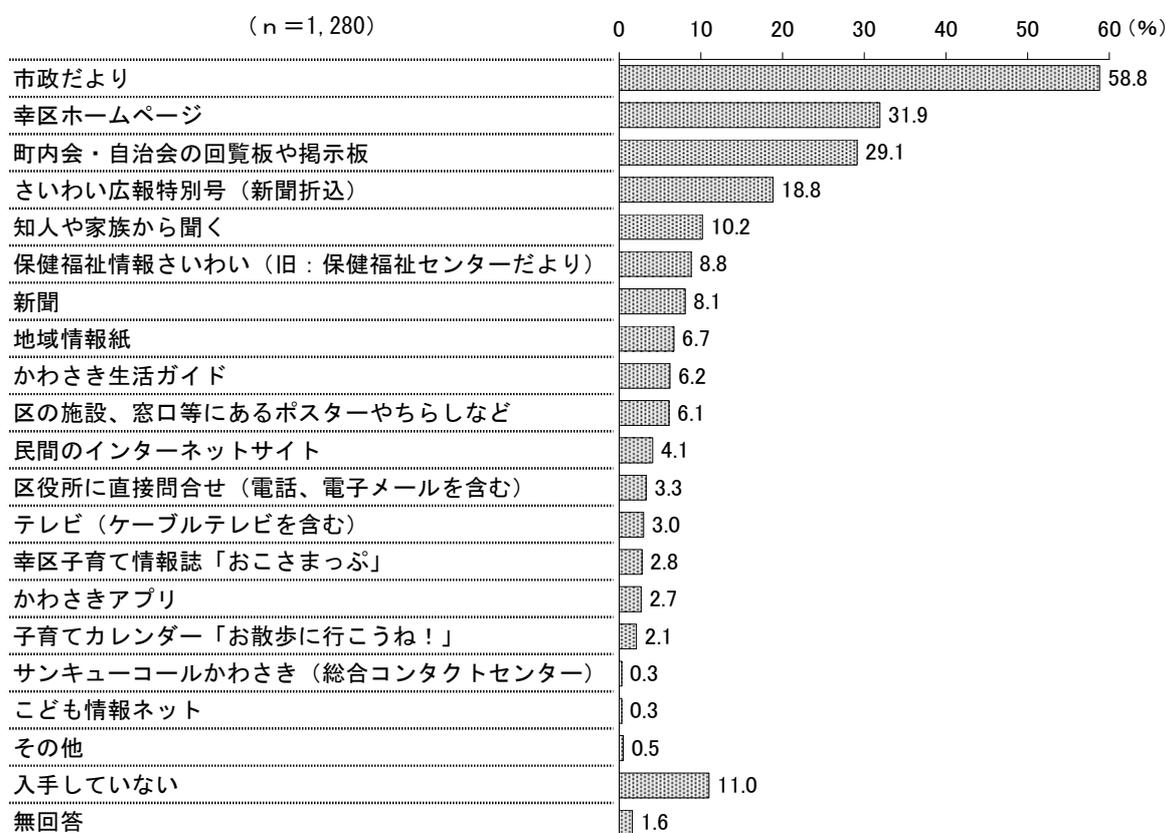
「障害者アートや障害者スポーツを体験できるイベントの開催」が54.8%で最も高く、次いで「アーティストやアスリートが参加する活動風景や練習などを見学できる機会の創出」(32.8%)、「障害者が優先的に使用できる施設の充実」(29.7%)と続いている。



11 行政の情報について

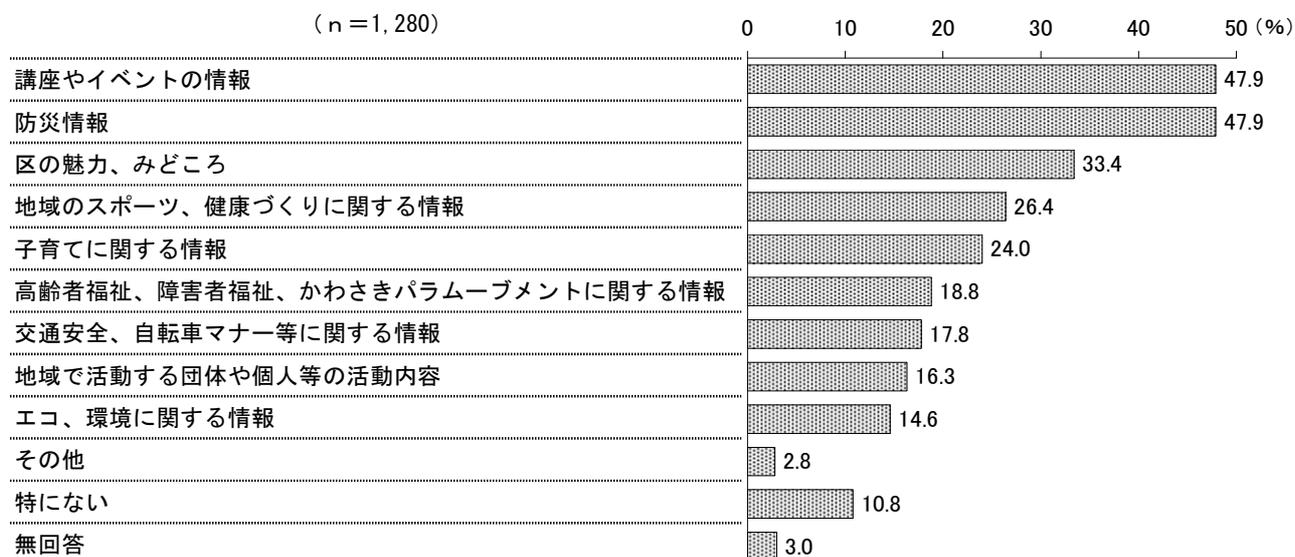
(1) 行政情報の入手方法 (複数回答)

「市政だより」が58.8%で最も高く、次いで「幸区ホームページ」(31.9%)、「町内会・自治会の回覧板や掲示板」(29.1%)と続いている。



(2) 市政だより幸区版等で掲載してほしい記事 (複数回答)

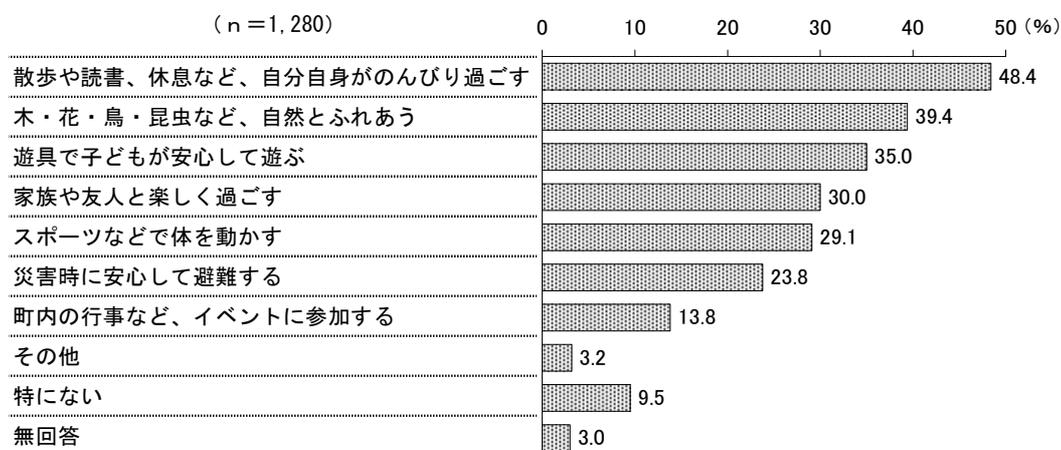
「講座やイベントの情報」と「防災情報」がともに47.9%で高く、次いで「区の魅力、みどころ」(33.4%)と続いている。



12 公園の利用について

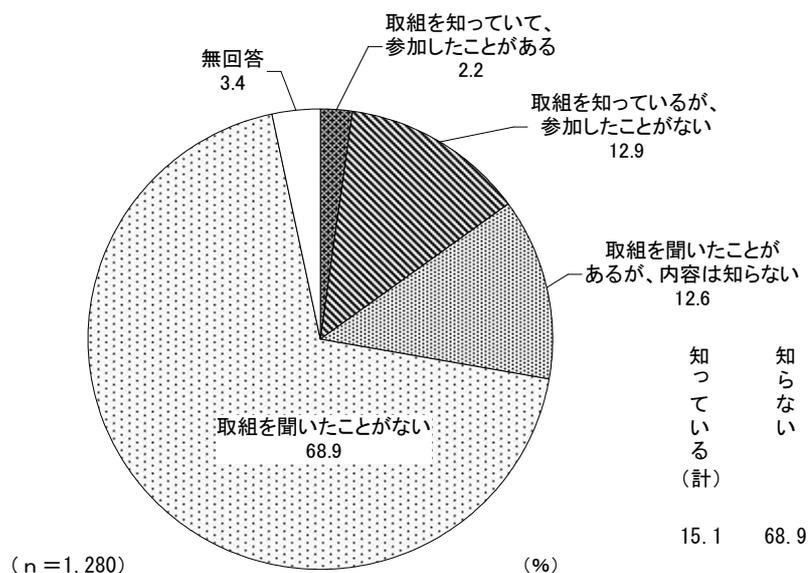
(1) 公園の利用方法 (複数回答)

「散歩や読書、休息など、自分自身がのんびり過ごす」が48.4%で最も高く、次いで「木・花・鳥・昆虫など、自然とふれあう」(39.4%)、「遊具で子どもが安心して遊ぶ」(35.0%)と続いている。



(2) 「御幸公園梅香事業」の認知度

「取組を知っていて、参加したことがある」(2.2%)と、「取組を知っているが、参加したことがない」(12.9%)を合わせた、事業の認知度『知っている(計)』は15.1%、「取組を聞いたことがあるが、内容は知らない」は12.6%となっている。一方、「取組を聞いたことがない」は68.9%となっている。



13 自由意見

「区役所の窓口対応について」(39件)が最も多く、次いで「区役所、行政全般について」(24件)、「生活環境について」と「公園・緑地・河川の整備について」(ともに19件)と続いている。

順位	項目	件数
第1位	区役所の窓口対応について	39
第2位	区役所、行政全般について	24
第3位	生活環境について	19
〃	公園・緑地・河川の整備について	19
第5位	バス・鉄道などの公共交通機関について	18



令和2年度幸区区民アンケート調査 <概要版>

令和2年9月

発行 幸区役所まちづくり推進部企画課

〒212-8570 川崎市幸区戸手本町 1-11-1

TEL 044-556-6612(直通)

FAX 044-555-3130

メールアドレス 63kikaku@city.kawasaki.jp